

- ①検証授業の進め方等で改善できた部分と改善を必要とする部分を明確にできたか
- ②テスト等から子どもの変容が考察できたか。
- ③授業観察記録等から子どもの変容を考察できたか。
- ④授業仮説の有効性が診断できたか。
- ⑤今後の研究の進め方等に、残された課題を明確にしたか。

NOの場合、次のような方法が考えられる。①ではKJ法等で数量的に集計し、図表化する。②ではデータの処理法を変え変容が分かるようにする。③では質問紙法、面接、VTR等の内容から児童・生徒の変容についてまとめる。④では②③をもとにして子どもの実態をとらえたデータの信頼性、仮説とその表現の仕方の妥当性、指導案にもとづいた方法や進め方の客観性等を検討しなおす。またどうして予想に反したかを理論づけし、次の授業仮説設定に役立てる。⑤残された課題を項目化したりして記録を累積する。また、研究の効果を維持するための方法も明らかにしておく。